

# 浄水場

安全でおいしい水をつくります



河川から取り入れた水(原水)を安全でおいしく飲むことのできる水道水に処理する施設が浄水場です。つまり浄水場は、水道水をつくる工場なのです。

札幌市の浄水場は、豊平川を水源とする藻岩浄水場・白川浄水場・定山溪浄水場、琴似発寒川を水源とする西野浄水場、星置川・滝の沢川を水源とする宮町浄水場の5か所があります。

浄水処理方式はいずれも急速ろ過と呼ばれる方式であり、水の濁りなどを凝集※→沈でん→ろ過→塩素消毒の順で取り除くもので、今日の浄水処理の主流です。浄水場でつくられた水道水は、配水池を経由して配水管によって市内のすみずみまで送られます。

※細かい濁りの成分を集め、大きな固まりにすること



白川浄水場 南区白川1814番地

豊平川の上流に建設された豊平峡ダムを水源とし、昭和46(1971)年に通水した白川浄水場は、給水需要の増大に合わせて給水能力の増強を進めてきました。現在では豊平峡ダムのほか定山溪ダムを水源とし、給水能力54万m<sup>3</sup>/日の札幌市最大の浄水場となっており、本市の給水能力の7割以上をまかっています。また、安全な水をつくるため、浄水場の各施設の水位や流量、薬品の注入量などは、コンピューター制御により集中管理しています。場内の多くの施設で、耐震性能が不足しているとともに経年劣化が進んでいることから、改修事業を行っています。

白川浄水場改修事業 [検索](#)



中央管理棟



中央管理室



藻岩浄水場 中央区伏見4丁目6番

豊平川表流水を水源とし、昭和12(1937)年、札幌市の水道創設時に建設された、最も歴史のある浄水場です。施設の老朽化により、平成15(2003)年に現在のものに全面的に改修しています。なお創設時の施設は水道記念館に姿をかえ、平成19(2007)年にリニューアルオープンしました。



宮町浄水場 手稲区手稲金山134番地

星置川・滝の沢川を水源とする宮町浄水場は、旧手稲町が創設した浄水場で、昭和42(1967)年の合併により札幌市に引き継がれました。その後、給水需要の増大に伴い昭和53(1978)年に改築を行い、また平成27(2015)年には、耐震化を含めた改修を行って現在の姿となっています。



定山溪浄水場 南区定山溪温泉6区

豊平峡ダムと豊平川表流水を水源とする定山溪浄水場は、旧豊平町が創設した浄水場で、昭和36(1961)年の合併により札幌市に引き継がれました。その後、改築を行い、昭和58(1983)年に現在の姿になりました。

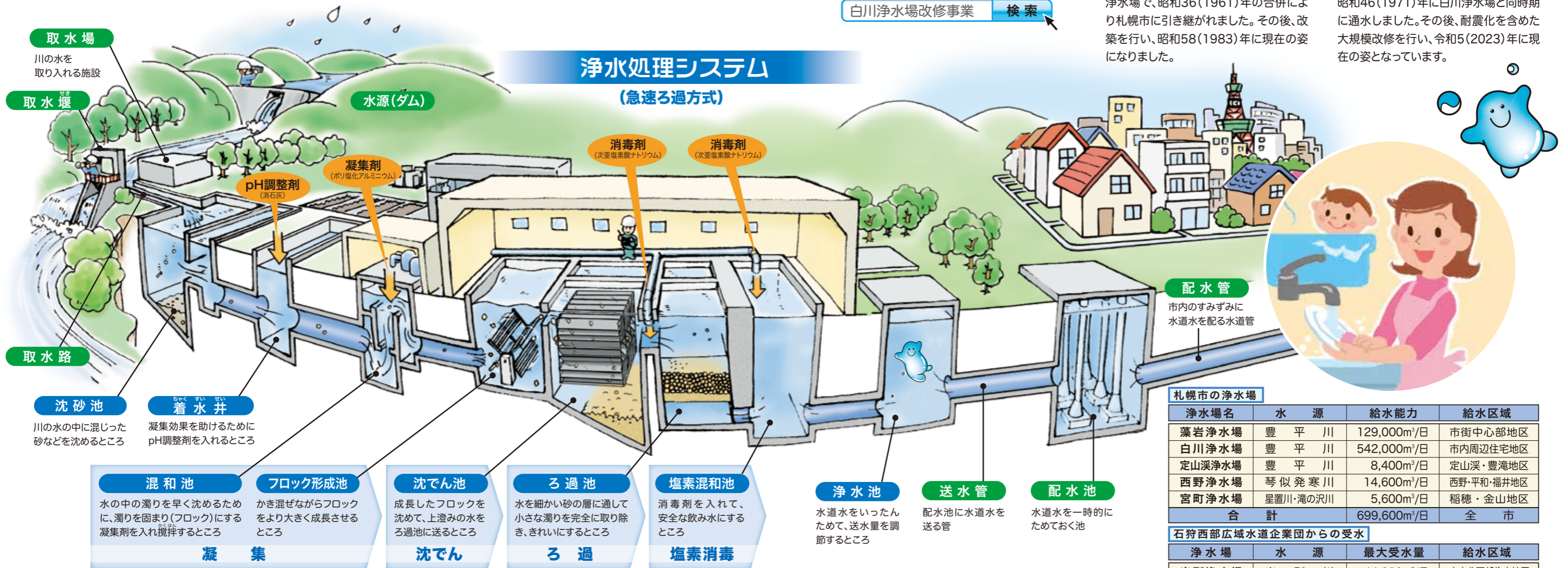


西野浄水場 西区西野684番地

琴似発寒川を水源とする西野浄水場は、西野地区の宅地化の進行に対応するため、昭和46(1971)年に白川浄水場と同時期に通水しました。その後、耐震化を含めた大規模改修を行い、令和5(2023)年に現在の姿となっています。

## 浄水処理システム

(急速ろ過方式)



札幌市の浄水場			
浄水場名	水 源	給水能力	給水区域
藻岩浄水場	豊平川	129,000m <sup>3</sup> /日	市街中心部地区
白川浄水場	豊平川	542,000m <sup>3</sup> /日	市内周辺住宅地区
定山溪浄水場	豊平川	8,400m <sup>3</sup> /日	定山溪・豊滝地区
西野浄水場	琴似発寒川	14,600m <sup>3</sup> /日	西野・平和・福井地区
宮町浄水場	星置川・滝の沢川	5,600m <sup>3</sup> /日	稲穂・金山地区
合 計		699,600m <sup>3</sup> /日	全 市

石狩西部広域水道企業団からの受水			
浄水場	水 源	最大受水量	給水区域
当別浄水場	当別川	44,000m <sup>3</sup> /日	市内西北部住宅地区